

科目名	疾病治療論2			ナンバリング	BSS431	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	佐藤龍昌	担当教員					

授業の概要	1年次に学んだ「疾病治療論1」に続いて、主要な内分泌・代謝疾患、脳・神経疾患、精神疾患、泌尿・生殖器疾患(乳腺疾患、異常妊娠を含む)、運動器疾患、アレルギー性疾患、リウマチ性疾患、感染症、感覚器疾患の病態生理、診断、治療、転帰について学修する。特に、治療については、在宅ケアを含めた看護との関連性について学修する。また、ここでは、小児治療学の総論を学修して、小児看護の基本についても学ぶ。						
到達目標	1、全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについて説明できる。2、系統的に内科疾患を分類できる。3、個々の疾患概念について説明できる。4、個々の疾患の症状、臨床経過について説明できる。5、個々の疾患の診断、治療について説明できる。6、疾患概念に基づく治療法について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	疾病治療論は、すでに履修した解剖生理学、生化学を基本とし公衆衛生学、疫学などの社会医学と関連する。また、日々更新される診断・治療の選択には心理学、哲学等の広範囲な知識を必要としていることを常に意識して学習してほしい。講義では時間の制約上極めて基本的な事項の説明にとどまるが各自の日々の学習よりさらに理解を深めてほしい。講義で使用するスライド、資料等はmanaba@IMUIにて開示する。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1、全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについて説明できる。2、個々の疾患概念について説明できる。3、個々の疾患の症状、臨床経過について説明できる。4、個々の疾患の診断、治療について説明できる。期末試験100点満点で70点以上80点未満。	1、全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについてわかりやすく説明できる。2、個々の疾患概念についてわかりやすく説明できる。3、個々の疾患の症状、臨床経過についてわかりやすく説明できる。4、個々の疾患の診断、治療についてわかりやすく説明できる。期末試験100点満点で80点以上90点未満。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○				

課題、評価のフィードバック	期末試験(多肢選択方式の客観試験)の100点満点で評価する。
---------------	--------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	内分泌疾患	主要な内分泌疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第2回	代謝疾患	主要な代謝疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第3回	脳・神経疾患①	主要な中枢神経疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第4回	脳・神経疾患②	主要な末梢神経疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第5回	精神疾患①	主要な精神疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第6回	精神疾患②	主要な精神疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第7回	泌尿・生殖器疾患①	主要な腎疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第8回	泌尿・生殖器疾患②	主要な男性生殖器疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第9回	泌尿・生殖器疾患③	主要な女性生殖器疾患(乳腺、異常妊娠を含む)の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第10回	運動器疾患	主要な運動器疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第11回	アレルギー・リウマチ性疾患①	主要なアレルギー・リウマチ性疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第12回	アレルギー・リウマチ性疾患②	主要なアレルギー・リウマチ性疾患の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第13回	感染症総論	主要な感染症の病態生理、診断、治療について理解し説明できる。	
	第14回	感覚器疾患	血液・造血器疾患,特に貧血の病態、診断、治療について概説できる。	
	第15回	小児治療学総論	成人とは異なる小児の生理を理解し病態に即した治療学の基本を説明できる。(特に栄養、水分・電解質、薬物投与について)	
	試験	試験を実施する。		
授業の進め方		講義と質疑応答とする。		
授業外学習の指示		シラバスに記載されている次回の授業内容、到達目標を確認し教科書、資料等を用いて事前学習を行い授業に臨むこと。事前学習時間は最低30分を要する。授業終了後はレポート課題にて積極的に自己学修を行い知識と理解の定着に努めること。  (授業外学習時間: 毎週 60 分)		

教科書	①ナーシング・グラフィカ 疾患の成り立ち(1)病態生理学 ②ナーシング・グラフィカ 疾患と治療健康の回復と看護(1)～(7)
参考書	
参考URLなど	
その他	

## ルーブリック「疾病治療論2」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3 (模範的、理想的)	レベル2 (標準、合格)	レベル1 (要改善、不合格)
1	評価到達目標項目1	全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについてわかりやすく説明できる。	全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについて説明できる。	全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについて説明できない
2	評価到達目標項目2	個々の疾患概念についてわかりやすく説明できる。	個々の疾患概念について説明できる。	個々の疾患概念について説明できる。
3	評価到達目標項目3	個々の疾患の症状、臨床経過についてわかりやすく説明できる。	個々の疾患の症状、臨床経過について説明できる。	個々の疾患の症状、臨床経過について説明できない。
4	評価到達目標項目4	個々の疾患の診断、治療についてわかりやすく説明できる。	個々の疾患の診断、治療について説明できる。	個々の疾患の診断、治療について説明できない
5				
6				
7				